



# 知床科学委員会 しんぶん

## エゾシカ・ヒグマ

### ワーキンググループ NO.24

知床世界自然遺産  
地域科学委員会

エゾシカ・ヒグマ  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツアーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議



知床半島のエゾシカとヒグマの適切な管理について有識者から意見を伺う、エゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議が2022年2月14～15日、オンラインで開催されました。今回は主に来年度に改定となるエゾシカとヒグマの管理計画について話し合いました。

必見!  
TOPIC

## メスヒグマの捕獲上限について話し合いました



知床(斜里町・羅臼町・標津町)では狩猟や有害捕獲により毎年一定数のヒグマを捕獲しています。「知床半島ヒグマ管理計画」ではヒグマの個体数を極端に減らさないよう、メスヒグマの捕獲数に上限目安を設けています。会議では、ヒグマの生息数や近年の被害状況等を踏まえて上限目安について検討が行われました。

### メスヒグマの捕獲上限目安

上限目安 15頭/年

実績 12.8頭/年(平均)



第1期管理計画  
2017～2021年

上限目安 18頭/年(検討中)



第2期管理計画  
2022～2027年



▲市街地への侵入により有害捕獲となったヒグマ。被害防止のためには有害捕獲が必要となる状況も多い。

2019年～2020年に実施した大規模なDNA調査※により、知床半島に定着している推定ヒグマ個体数が2019年時点で472頭(393～550頭)、2020年時点で399頭(342～457頭)であることがわかりました。これらの情報を元に個体数の増減を分析した結果、ヒグマの生息数は2010年までは増加し、その後はほぼ横ばい状態を保っている可能性が高いことがわかりました。

※環境研究総合推進費を用いて東京農工大学、北海道立総合研究機構、北海道大学、知床財団により実施された広域ヘアトラップ調査。( )内の数値は95%信頼区間。

個体数を減らしすぎないように、捕獲数に上限を設けているんだね。



## 第4期知床半島エゾシカ管理計画が始まります

2022年4月から「第4期知床半島エゾシカ管理計画」が始まります。第4期管理計画では、3期管理計画の間のシカの生息状況や植生の被害状況をもとに地域ごとに具体的な数値目標を設定し、引き続き積極的な個体数調整が行われます。一方で知床のエゾシカは観光資源としても重要な側面を持っているため、次期管理計画期間中は毎年関係機関や団体との協議の場を設定し、様々な意見を取り入れながら管理手法を検討していくことが会議で改めて確認されました。



▲エゾシカを観察する観光客

注目

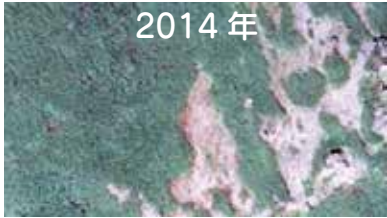
## 高山植生の変化はシカの影響？

航空写真を用いた植生評価

### 航空写真による植生の比較



1978年



2014年

この変化は、シカよりも気温や積雪などの気候変動の影響と考えられているよ。



▲知床の高標高域を撮影した航空写真の比較。2014年では濃い緑ハイマツが増加しており、高山植生の減少が疑われる。

今回改定となる知床半島エゾシカ管理計画では、エゾシカによる植生への影響を測るために様々なモニタリング項目を設定しています。「高山植生への影響調査」もその一つに位置づけられています。知床半島の高山帯には、固有種であるシレットコスミレを始めとした高山植物が数多く分布しています。これらの植物は、高山の厳しい環境に適応できた一方で、エゾシカの採食圧や気候変動など、環境の変化に対して脆弱な面があり、甚大な影響を受けやすいほか、一帯に収集していく予定であり、様々な角度から保全に向けた取り組みを進めていきます。

注目

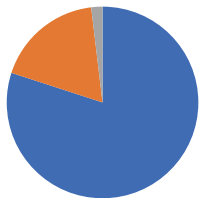
## ヒグマアンケートを実施しました

2021年、地域住民(斜里町・羅臼町・標津町)や知床国立公園を訪れた観光客を対象にヒグマアンケートが実施されました。アンケートを通じて、ヒグマに対する意識やヒグマと共存するための知識の浸透状況が明らかになりました。

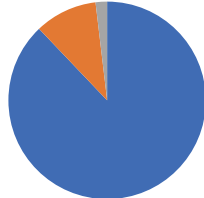
地域住民に対するアンケートでは、約8割の住民が「自宅の周辺や町内にヒグマが出没することに不安を感じる」と回答しています。実際に昨年羅臼町ではヒグマにより漁業者の作業場が荒らされる事件が相次ぎました。こうした案件をなくすためには、地域住民や事業者自らによる対策も不可欠です。ヒグマとのトラブルを防ぐために実施していることを問う設問では、「食べ物やゴミ、干し魚を自宅や作業場の周辺に放置しないよう取り組んでいる」と回答した方は3町全体で88%という結果で、多くの方が対策に取り組んでいることが分かりました。

### 地域住民のヒグマ対策実施状況に関するアンケート結果 (3町合計)

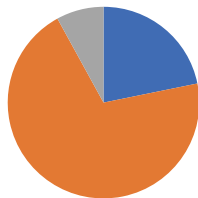
- 取り組んでいる
- 知っているが取り組んでいない
- 知らなかった



車中からヒグマを見つけても、降車せずに、すばやくその場を離れる



食べ物やゴミ、干し魚を自宅や作業場の周辺に放置しない



森林や山に出かける際には、クマスプレーを携帯する

会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら

知床データセンター：<http://dc.shiretoko-whc.com/>

●ヒグマ情報(生態や注意点)を発信しています

知床のヒグマ：<https://brownbear.shiretoko.or.jp>

Facebook：[@BearSafetyShiretoko](https://www.facebook.com/BearSafetyShiretoko)

Twitter：[@bear\\_shiretoko](https://twitter.com/bear_shiretoko) Instagram：[bear\\_safety\\_shiretoko](https://www.instagram.com/bear_safety_shiretoko)

■問い合わせ先■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4階

